

学校給食 あったかいご飯とスープ 2学期からスタート



8月31日に役場で各学校の校長先生をはじめ給食関係の先生方が試食会を行いました。「おいしい」と好評でした。

弁当箱方式から 食缶方式に

学校給食が九月二日から児童生徒が直接盛り付けをする食缶方式に変わりました。昭和五十四年以来、給食センターでは弁当箱方式で米飯給食を行なってきましたが、「暖かいご飯、暖かいスープ類が食べたい」と、児童、生徒から強い要望が出ていました。町では、この要望の実現にむけいろいろと検討を続けてきた結果、今までの弁当箱方式から、ランチ皿、ご飯茶わん、汁わんに児童、生徒が盛り付けをする食缶方式に変えることを決め、2学期からの実施となったものです。

給食センターでは、従前の弁当箱方式よりも、手間がいくらか省けるため、この分をおかずにもむけ、暖かいご飯、暖かいスープを基調としたできるだけ手作りによるおかず作りに努め、家庭的な、みんなに喜ばれる学校給食になるように努力していきたいと考えています。

食缶方式導入に よる経費は

食缶方式導入に伴ない、食器の購入や、給食センター施設の

一部を改良しました。そのためにかかった経費は次のとおりです。

総経費 一、〇七二万円

(内 訳)

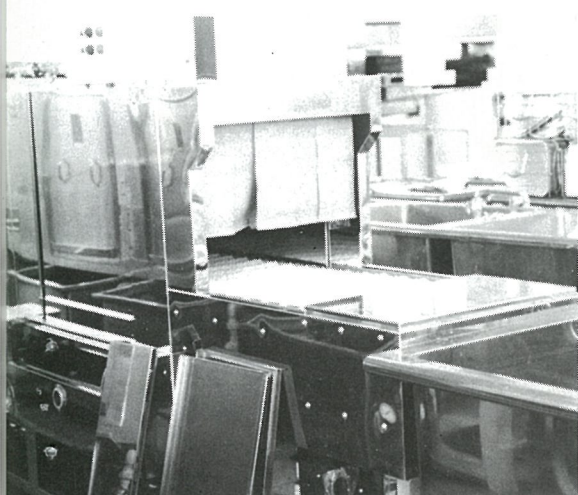
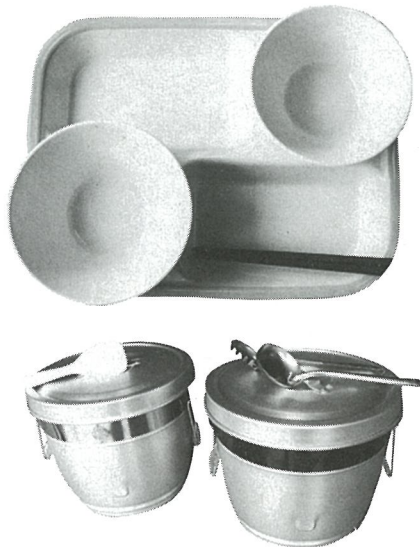
食器他一七六万円

ちゅうぼう機器 五二五万円

食缶他二五〇万円

コンテナ改良 一二〇万円

(ちゅうぼう機器五二五万円については、 $\frac{1}{2}$ を国が補助してくれます。)



▲購入された食器洗浄機